

事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

1. 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当年度における経済情勢は、政府の経済政策による円安・株高を背景に、景気は緩やかな回復基調を辿り、道内の消費傾向においても大型小売店販売額が3年連続前年を上回るなど消費者マインド改善の兆しが見られましたが、家計負担の圧迫懸念や建設物価上昇による民間設備投資意欲の減退など先行き不透明感も強まりました。

このような情勢の下、当社は、主要部門であるショッピングセンター（SC）事業をはじめ各事業部門において、魅力あるSCづくり、副都心開発推進の観点から各種の取り組みを行ってまいりました。

具体的には、施設老朽化への対応としてサンピアザの耐震診断結果に基づく施工方法の検討や北駐車場劣化対策の取りまとめを進めるとともに、ESCO事業のサンピアザ娛樂棟への対象範囲拡大、危機管理対策としての事業継続計画（BCP）の策定、財務体質改善のための自己資金の積み増しなど将来基盤の強化を進めました。また、工業高校による全国規模の『ジャパン・マイコンカーラリー』の誘致や公共地下通路における『新さっぽろARTWALL』の開設など文化事業の積極的な展開を進めるとともに、光の広場にデジタルサイネージ（大型ディスプレイによる映像表示装置）を導入し各種催事・イベントの告知強化を図りました。さらに、陳腐化が進んでいるデュオSCのリニューアル計画の策定を進めるとともに、暫定利用する北・南・東駐車場区画の開発進展に向けて立地事業予定者ほか関係者との調整・折衝や代替駐車場整備に向けた開発計画の検討を進めました。

上記の結果、当年度の業績は、収入面ではSC事業をはじめ、水族館事業、ホテル事業の各部門において増収となり、売上高は4,142百万円（対前年度比101.9%）となりました。一方、支出面では売上原価がほぼ前年並みの3,228百万円（同100.4%）、販売費一般管理費も微増にとどまったことから、経常利益は357百万円（同115.2%）と前年を上回りましたが、北駐車場の解体決定に伴う減損損失等156百万円の特別損失計上により、税引後の当期純利益は107百万円（同82.3%）となり、増収減益決算となりました。

(2) 財産及び損益の状況の推移

年度 項目	平成 22 年度 第 37 期	平成 23 年度 第 38 期	平成 24 年度 第 39 期	平成 25 年度 (当期)第 40 期
売上高(百万円)	4,058	4,104	4,063	4,142
経常利益(百万円)	97	225	310	357
当期純利益(百万円)	53	△33	130	107
1株あたり当期純利益	31円00銭	△19円24銭	74円87銭	61円82銭
総資産額(百万円)	25,733	25,842	25,807	25,298
純資産額(百万円)	10,579	11,148	11,278	11,386
1株あたり純資産額	6,080円29銭	6,407円19銭	6,482円17銭	6,544円03銭

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 重要な親会社の状況
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況

会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
アーク開発振興(株)	17,165 万円	46.60%	ビルメンテナンス受託業務他
(株)アークホテルシステム	2,000 万円	100.00%	ホテルの管理運営業務
(株)新さっぽろパーキングシステム	2,000 万円	100.00%	駐車場の管理業務

(4) 重要な企業結合等の状況

会社法施行規則第 120 条に規定する事業の譲渡、他の会社の事業の譲受及び株式その他の持分又は新株予約権の取得、吸収合併又は吸収分割による他法人等の事業に関する権利義務の承継等に該当する事項はありません。

(5) 主要な事業内容

- ① SC 事業
札幌副都心開発の一環として建設した SC3 棟（サンピアザ、デュオ 1、デュオ 2）の賃貸・管理・運営
- ② 関連事業
駐車場 5 ヶ所（サンピアザ、デュオ、北、東、南）、新札幌バスターミナル、サンピアザ水族館、新さっぽろデュオカルチャースクール、サンピアザ劇場等の管理・運営、その他付随する事業
- ③ ホテル事業
デュオ 1 ビル内に設置の都市型ホテル（新さっぽろアークシティホテル）の管理・運営
- ④ 土地賃貸事業
高層ホテルビル・オフィスビルに係る土地の賃貸事業

(6) 主要な事業所

名称	所在地	開設日
新さっぽろアークシティ「サンピアザ」SC	札幌市厚別区	昭和 52 年 6 月 10 日
新さっぽろアークシティ「デュオ 1」SC	札幌市厚別区	平成 2 年 6 月 1 日
新さっぽろアークシティ「デュオ 2」SC	札幌市厚別区	平成 4 年 6 月 5 日
新さっぽろアークシティホテル	札幌市厚別区	平成 2 年 6 月 6 日

2. 会社の株式に関する事項

(1) 株式数

- ① 発行する株式の総数 2,800,000 株
- ② 発行済み株式の総数 1,740,000 株

(2) 株主数 18 名

(3) 発行済み株式の総数の 10 分の 1 以上の株式を保有する株主を含む大株主の状況

大株主名	持株数	出資比率
札幌市	600,000 株	34.5%
株式会社日本政策投資銀行	340,000 株	19.5%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	160,000 株	9.2%
ノースパシフィック株式会社	153,000 株	8.8%
株式会社北洋銀行	87,000 株	5.0%
株式会社北海道銀行	80,000 株	4.6%
株式会社みずほ銀行	80,000 株	4.6%
北海道	60,000 株	3.4%
共栄火災海上保険株式会社	37,200 株	2.1%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	20,560 株	1.2%
東京海上日動火災保険株式会社	20,560 株	1.2%
日本興亜損害保険株式会社	20,560 株	1.2%
三井住友海上火災保険株式会社	20,560 株	1.2%

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等（当年度末現在）

地位及び担当	氏名	重要な兼職の状況
代表取締役社長	福島 康則	(株)新さっぽろパーキングシステム代表取締役社長
取締役副社長	山澤 充雄	アーク開発振興(株)代表取締役社長
専務取締役	寺嶋 俊道	(株)アークホテルシステム代表取締役社長
取締役	川尻 寿彦	
取締役	荒木 啓文	札幌商工会議所専務理事
取締役	小林 良輔	(株)北洋銀行常務執行役員公務金融部長
取締役	関根 久修	(株)日本政策投資銀行北海道支店長
取締役	高橋 稔	札幌市都市局長
取締役	西山 秀樹	(株)北海道銀行常務執行役員石狩・空知地区営業担当
常勤監査役	秋間 博志	
監査役	合月 宏	北海道瓦斯(株)常勤監査役
監査役	山田 範保	北海道電力(株)嘱託

4. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称 新日本有限責任監査法人

(2) 当該事業年度中に辞任又は解任された会計監査人に関する事項
該当事項はありません。

5. 業務の適正を確保するための体制

当社は、平成 18 年 6 月 8 日開催の取締役会において、次のとおり内部統制システムの整備に関する基本方針を決議しております。

以上